

**CASBEE-建築(新築)2014年版**  
 (仮称)京田辺駅前マンション新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.01)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>3.5</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	<b>0.15</b>	<b>3.3</b>	<b>1.00</b>			<b>3.3</b>
1.1 騒音		3.0	0.50	3.0	0.50			
1.2 遮音		3.0	0.50	3.7	0.50			
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能	構造躯体壁にて遮音性能に配慮した 遮音性能LL-45のフローリングを使用 L数50以下となるよう構造スラブ厚を検討した	3.0	-	4.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	4.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	4.0	0.20			
1.3 吸音		3.0	-	-	-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.0</b>	<b>0.35</b>	<b>3.5</b>	<b>1.00</b>			<b>3.4</b>
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.7	0.71			
1 室温	断熱等性能等級「4」を取得	3.0	0.63	3.0	0.63			
2 外皮性能		3.0	0.38	5.0	0.38			
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.29			
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.0</b>	<b>0.25</b>	<b>3.3</b>	<b>1.00</b>			<b>3.2</b>
3.1 屋光利用		3.0	0.30	4.0	0.30			
1 屋光率	屋光率2.8	3.0	0.60	5.0	0.50			
2 方位別開口		3.0	-	3.0	0.30			
3 屋光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30			
1 屋光制御		3.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25			
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.2</b>	<b>0.25</b>	<b>4.2</b>	<b>1.00</b>			<b>4.2</b>
4.1 発生源対策		5.0	0.60	5.0	0.63			
1 化学汚染物質	全ての建材にF☆☆☆☆品を使用する	5.0	1.00	5.0	1.00			
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38			
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理		-	-	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-			
2 喫煙の制御		-	-	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>					<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>		<b>4.6</b>	<b>0.40</b>	<b>4.4</b>	<b>1.00</b>			<b>4.4</b>
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.40	5.0	0.60			
1 広さ・収納性	インターネット1ギガ対応 福祉のまちづくり条例の基準を満たしている	3.0	-	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応		4.0	1.00	5.0	1.00			
3 バリアフリー計画		5.0	0.30	3.5	0.40			
1.2 心理性・快適性		3.0	-	3.0	0.50			
1 広さ感・景観	コンセプトを設け、それに従った内装・照明計画を行った	3.0	-	3.0	-			
2 リフレッシュスペース		5.0	1.00	4.0	0.50			
3 内装計画		5.0	0.30	-	-			
1.3 維持管理		5.0	0.50	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	第一外壁にタイルを使用し、防汚性を考慮した	5.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	倉庫の設置、共用部での維持管理作業を可能とした	5.0	0.50	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.2</b>	<b>0.30</b>					<b>3.2</b>
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-			
1 耐震性	構造躯体劣化対策等級「3」を取得	3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.8	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数	5.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	3.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	3.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	排水管に耐火二層管を使用	5.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性			3.2	0.20		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備	受水槽に非常用水栓を設置	4.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			3.2	0.30	2.5	1.00	2.5
3.1 空間のゆとり					2.0	0.50	
1	階高のゆとり				2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.2	1.00			
1	空調配管の更新性		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性		3.0	0.20			
3	電気配線の更新性		3.0	0.10			
4	通信配線の更新性	空配管を行い配線の更新を可能にしている	5.0	0.10			
5	設備機器の更新性		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮		付近の環境を考慮した外観とした	4.0	0.40			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30			3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱等性能等級「4」を取得	5.0	0.20			5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10			3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 - 住宅(専有部) 1.01	4.0	0.50			4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)							
集合住宅の評価(3c)			4.0	1.00			
4 効率的運用			3.5	0.20			3.5
集合住宅以外の評価							
4.1	モニタリング						
4.2	運用管理体制						
集合住宅の評価			3.5	1.00			
4.1	モニタリング		3.0	0.50			
4.2	運用管理体制	入居者に「すまいのしおり」を配布	4.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.4	0.20			3.4
1.1 節水		節水こまと節水型便器の設置	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60			2.8
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		住戸内外壁に面する壁を造作壁とし、分別性を高めている	5.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.20			3.8
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない接着剤の使用	5.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70			
1	消火剤	機械式駐車場に移動式粉末消火設備(二酸化炭素ガス加圧式)を使	4.0	0.33			
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33			
3	冷媒		3.0	0.33			
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			3.8	0.33			3.8
2 地域環境への配慮			2.9	0.33			2.9
2.1 大気汚染防止		大気汚染物質を発生させない	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25			
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25			
3	交通負荷抑制		3.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25			
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1	騒音		3.0	0.50			
2	振動		-	-			
3	悪臭		3.0	0.50			
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40			
1	風害の抑制		-	-			
2	砂塵の抑制		-	-			
3	日照障害の抑制		3.0	1.00			
3.3 光害の抑制			4.4	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外広告灯を設置していない	5.0	0.70			
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			